

品川シェルター研修会 趣旨説明

釧路市



「森林都市くしろ」の誕生

- 平成17年の釧路・阿寒・音別3市町合併により、釧路市の森林面積は10万haを超えた（全道自治体中第3位）。
- 道東の拠点都市でありながら、広大な森林を有する「森林都市」へ
- 地域活性化の新たな武器である、「森林資源」の利活用が課題



釧路森林資源活用円卓会議

- 目的

市有林をはじめとした
釧路市内の森林資源活用策を検討

- 設置時期

H22.11

下部組織として、
川上部会・川下部会



- 林業・木材産業・設計士・工務店・木質資源利用者・研究機関など様々な関係者が参画

(H24.6現在、27名)

くしろ木づなプロジェクト

- 地域の課題

地域の地産地消の促進

地域内での高付加価値化の促進

- 事業構成

もっと知る くしろの木

(調査・試験など)

もっと使う くしろの木

(商品開発など)

もっと伝える くしろの木と技

(人材育成・普及啓発など)

もっと使う くしろの木

- 地震国くしろにおける「木材利活用」と「防災」
- 津波対策が必要な港町くしろにおいても、品川シェルターは有効。

「建物の倒壊で逃げ場を失えば、津波から避難できない」

H23年度末の円卓会議全体会において、今年度の商品開発の1つとして「品川シェルター」への取組を決定。

今後：モデル的に施工を実施予定。

施工・利用上の課題等を把握。